

無料低額宿泊所等において
日常生活上の支援を受ける必要がある
利用者の支援ニーズ評価の実装に
関する調査研究事業

中京大学 辻井正次

生活保護判定システムにおけるABIT
アルゴリズム導入の重要性

中京大学 辻井正次
お茶の水女子大学 伊藤大幸
中京大学 曾我部哲也
中京大学 明翫光宜

ABIT

Scales for **A**daptive **B**ehavior and
In**T**elligence

- 生活困窮者等における支援ニーズの調査・分析・判定及び評価，知的障害・発達障害・精神疾患又は身体疾患を有する生活困窮者等における支援ニーズの調査
- 分析・判定及び評価，知的障害・発達障害・精神疾患又は身体疾患を有する生活困窮者等に対する生活方針等の指導・助言又は情報の提供
- 特許出願済み・商標登録申請済み

基礎調査の概要

参加者

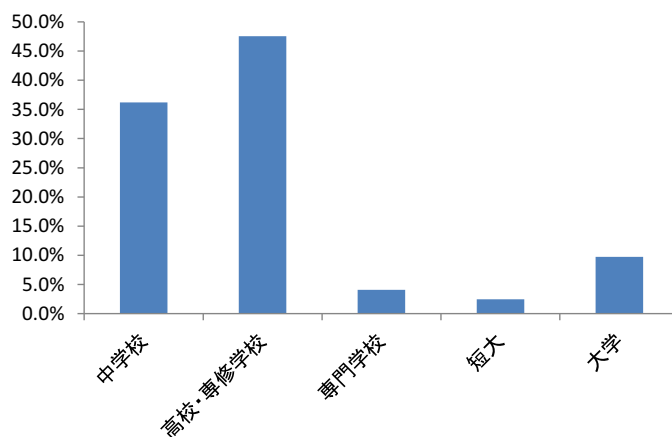
2017年度

年齢	救護施設			無料低額宿泊所			総計
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	
30代以下	7	4	11	38	6	44	55
40代	15	10	25	43	6	49	74
50代	52	18	70	60	8	68	138
60代	48	23	71	46	6	52	123
70代以上	0	0	0	15	7	22	22
合計	122	55	177	202	33	235	412

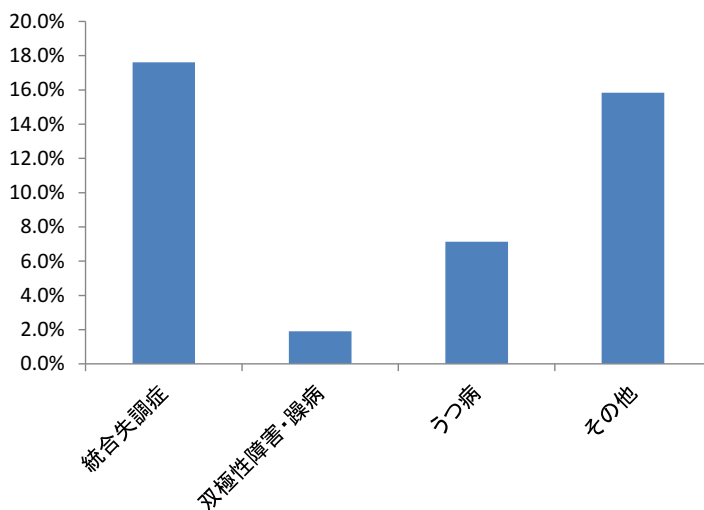
2018年度

年齢	救護施設			無料低額宿泊所			総計
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	
30代以下	2	1	3	12	1	13	16
40代	4	0	4	10	1	11	15
50代	8	3	11	14	2	16	27
60代	9	4	13	17	0	17	30
70代以上	8	0	8	8	4	12	20
合計	31	8	39	61	8	69	108

最終学歴

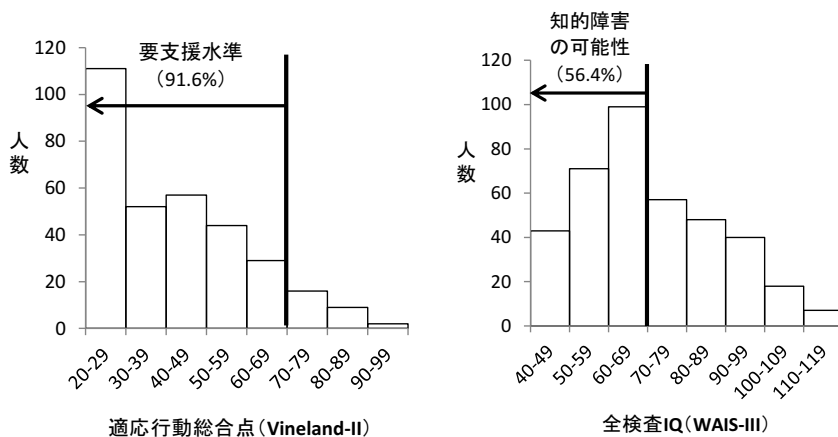


精神疾患(診断)



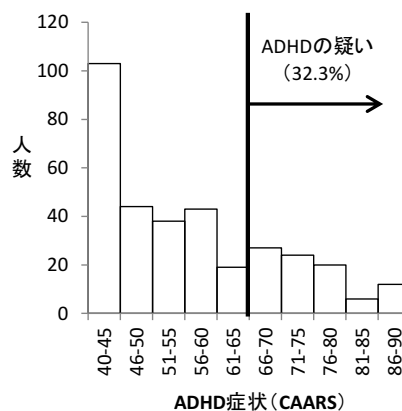
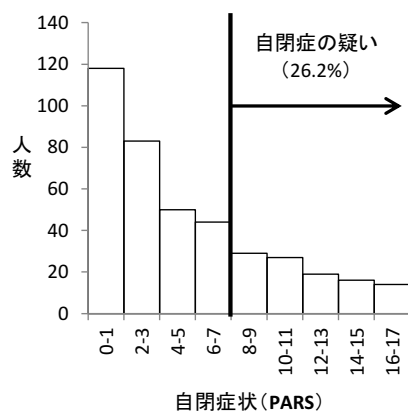
適応行動・知能の得点分布

• 適応行動総合点／全検査IQ



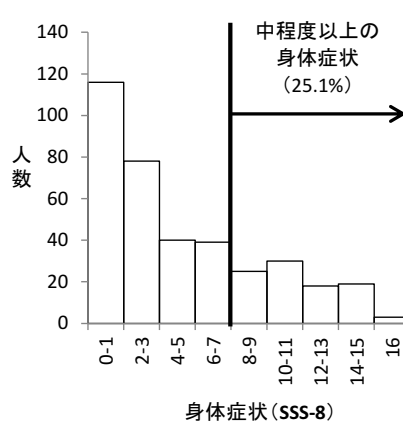
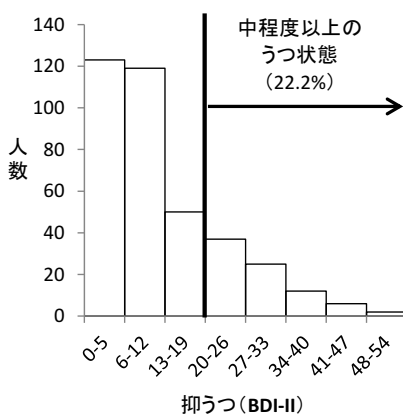
発達障害症状の得点分布

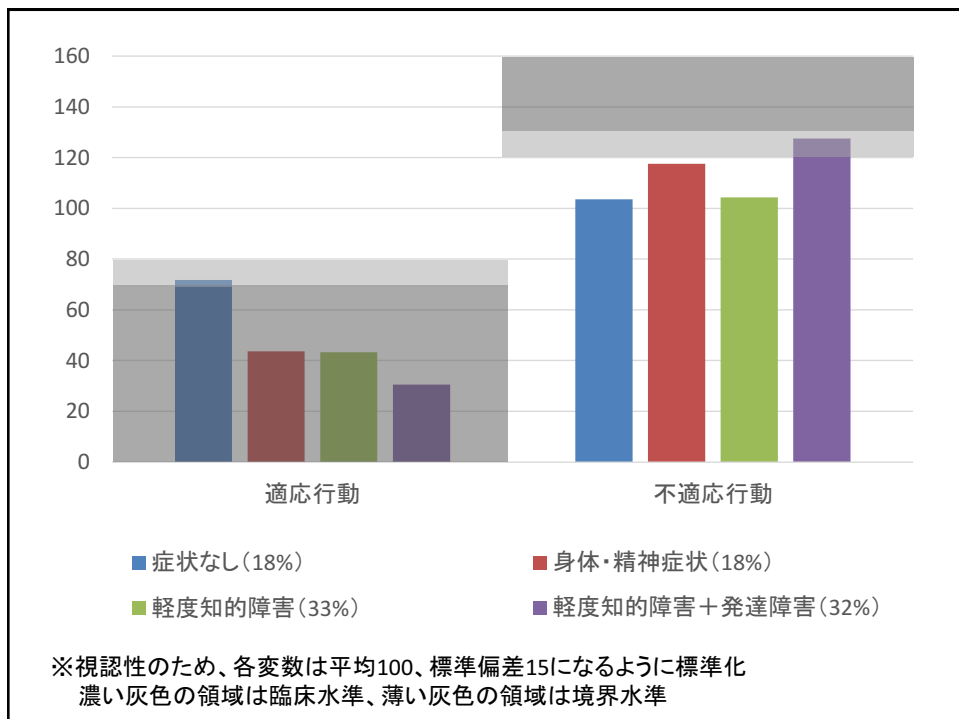
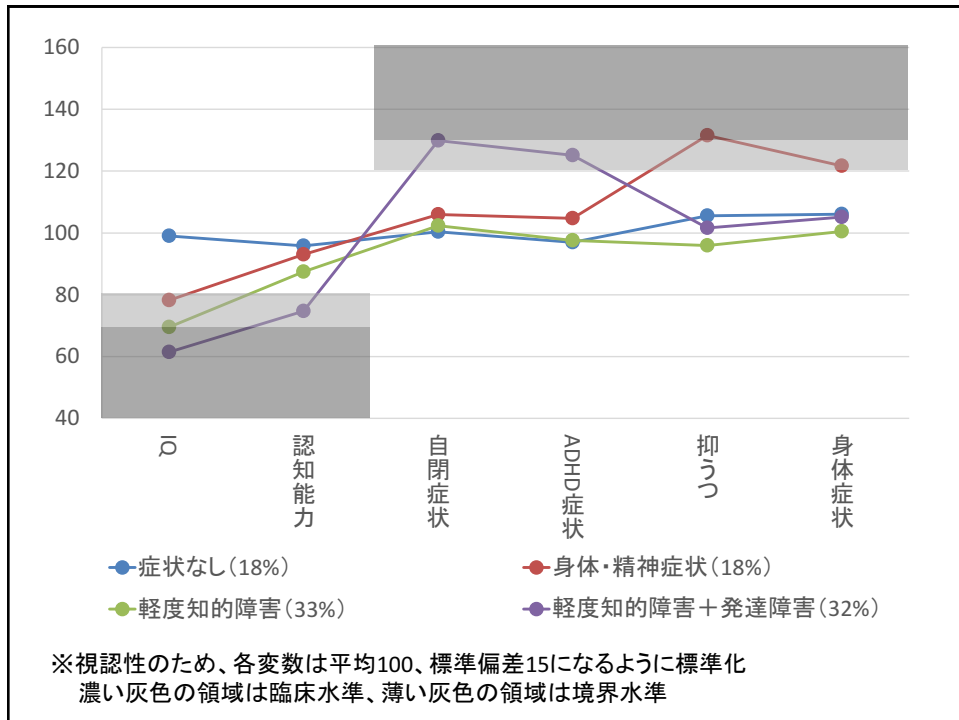
• ASD症状／ADHD症状

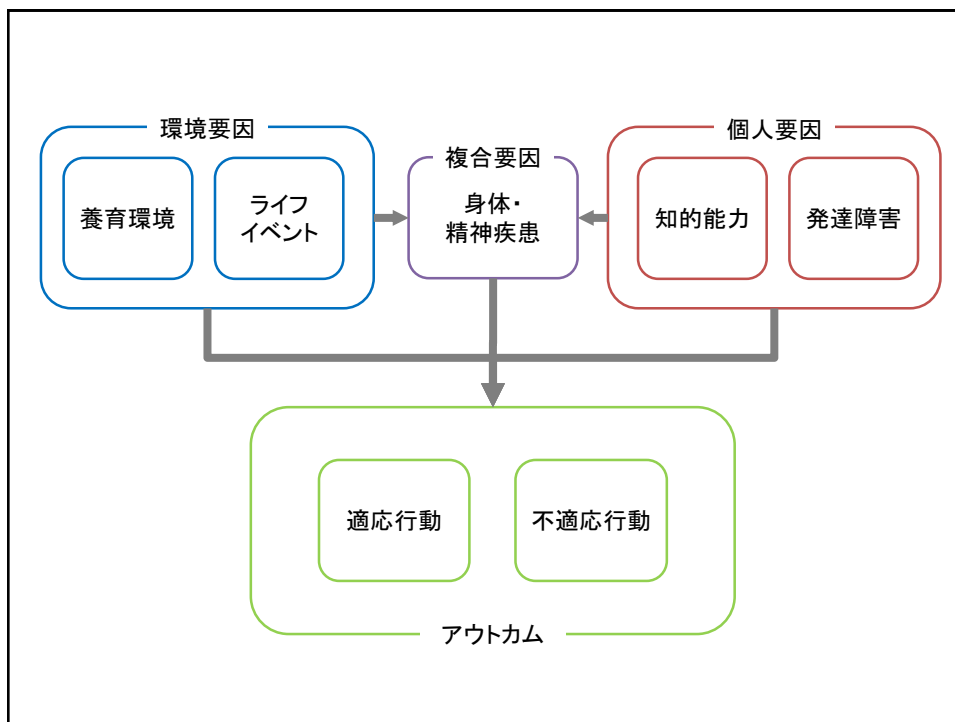


抑うつ・身体症状の得点分布

• 抑うつ／身体症状







ABITのプロトタイプ版開発

現状の評価をめぐる課題

包括的なアセスメント・パッケージの欠如

- ・尺度によって評価のシステムが異なるため、結果を総合した系統的な評価が困難

使用者の制限と実施コスト

- ・専門的なトレーニングを受けた者でなければ使用できない
- ・実施に2～3時間以上を要する

パッケージの構成

	前年度までの調査			新たに開発するパッケージ	
	名称	形式	所要時間	形式	所要時間
適応行動	Vineland-II	面接	40-60分	第三者評定の質問紙	8分
知能	WAIS-III	検査	60-90分	検査	20-30分
ASD症状	PARS-TR	面接	20-30分	第三者評定の質問紙	4分
ADHD症状	CAARS	第三者評定の質問紙	4分	第三者評定の質問紙	4分
統合失調症				第三者評定の質問紙	2分
精神症状	BDI-II	本人評定の質問紙	4分	本人評定の質問紙	4分
身体症状	SSS-8	本人評定の質問紙	2分	第三者評定の質問紙	2分

一般群サンプル

・年代×性別

計画

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	27	27	27	27	27	27	162
女性	27	27	27	27	27	27	162
計	54	54	54	54	54	54	324

参加者

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	23	29	26	22	29	28	157
女性	25	29	27	32	26	25	164
計	48	58	53	54	55	53	321

• 年代×地域

計画

地方	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
北海道	2	2	2	2	2	2	12
東北	4	4	4	4	4	4	24
関東	18	18	18	18	18	18	108
中部	10	10	10	10	10	10	60
近畿	8	8	8	8	8	8	48
中国	4	4	4	4	4	4	24
四国	2	2	2	2	2	2	12
九州	6	6	6	6	6	6	36
計	54	54	54	54	54	54	324

参加者

地方	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
北海道	2	2	1	2	3	2	12
東北	5	1	2	4	1	3	16
関東	19	27	22	16	24	23	131
中部	7	10	11	11	10	11	60
近畿	6	7	9	8	6	6	42
中国	1	4	1	5	3	4	18
四国	4	1	1	3	0	1	10
九州	4	6	6	5	8	3	32
計	48	58	53	54	55	53	321

一般群サンプル

• 年代×学歴(男性)

計画

最終学歴	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
小・中・高	10	10	12	13	15	19	79
短大・専門	5	5	5	3	3	2	23
大学・院	12	12	10	11	9	6	60
計	27	27	27	27	27	27	162

参加者

最終学歴	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
小・中・高	10	9	14	7	8	14	62
短大・専門	2	4	2	1	2	2	13
大学・院	11	16	9	14	19	12	81
不明	0	0	1	0	0	0	1
計	23	29	26	22	29	28	157

一般群サンプル

- 年代×学歴(女性)

計画

最終学歴	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
小・中・高	8	8	11	13	18	21	79
短大・専門	8	10	11	10	7	5	51
大学・院	11	9	5	4	2	1	32
計	27	27	27	27	27	27	162

参加者

最終学歴	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
小・中・高	10	10	6	17	15	14	72
短大・専門	6	8	16	10	6	9	55
大学・院	9	10	5	5	5	2	36
不明	0	1	0	0	0	0	1
計	25	29	27	32	26	25	164

生活困窮群サンプル

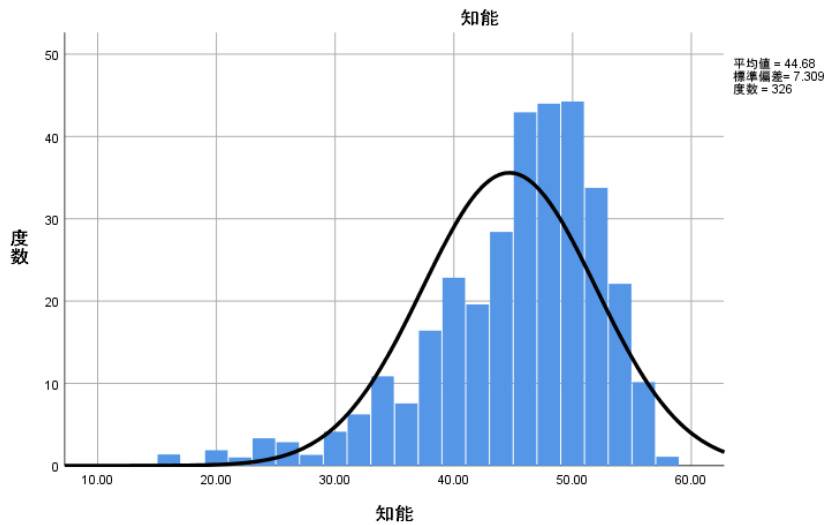
- 仙台、東京、名古屋、大阪の4つの無料低額宿泊所で調査を実施
- 38名（男性32名、女性6名）が参加
 - 平均年齢53.9歳（19～81歳；SD=46.8）

調査内容

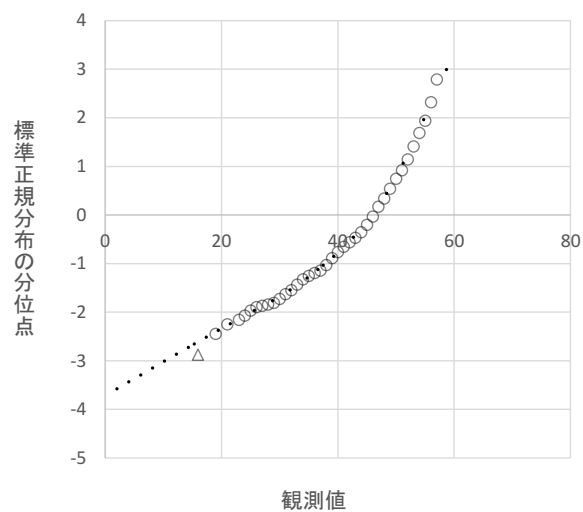
- 一般群
 - アセスメント・パッケージ（7領域）
- 生活困窮群
 - アセスメント・パッケージ（7領域）
 - WAIS-III知能検査
 - Vineland-II適応行動尺度

プロトタイプ版調査の結果・考察

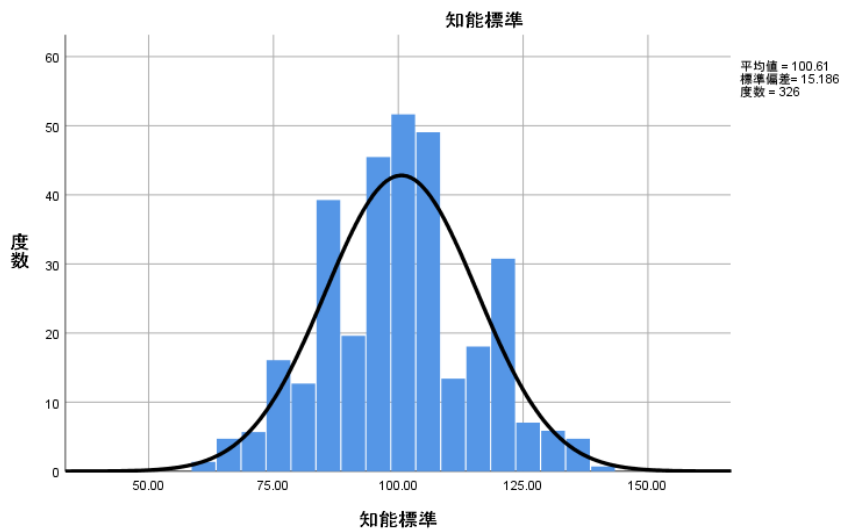
標準化



標準化



標準化



信頼性

	α 係数	測定標準誤差	90%信頼区間
知能	.910	4.50	± 7
意味	.834		
数	.749		
共通点	.759		
一般知識	.734		
適応行動	.932	3.90	± 6
ASD特性	.917	4.31	± 7
ADHD特性	.909	4.53	± 7
統合失調症症状	.854	5.73	± 9
身体症状	.715	8.00	± 13
精神症状	.921	4.22	± 7

基本属性による差異

• 性別による差異

	知能		適応行動		ASD特性		ADHD特性	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
男性	103.44	15.70	95.55	10.21	107.15	9.19	106.07	8.86
女性	97.78	14.14	96.29	9.62	105.27	7.90	105.67	8.72
	$F(1,324)=11.73,$ $p<.001$		$F(1,324)=0.44,$ $p=.504$		$F(1,322)=3.89,$ $p=.049$		$F(1,321)=0.168,$ $p=.682$	

	統合失調症症状		身体症状		精神症状	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
男性	114.24	4.77	103.96	10.44	97.41	13.64
女性	113.74	4.44	103.51	11.02	101.65	14.76
	$F(1,322)=0.919,$ $p=.338$		$F(1,323)=0.139,$ $p=.709$		$F(1,324)=7.25,$ $p=.007$	

基本属性による差異

• 年代による差異(前半)

年齢	知能		適応行動		ASD特性		ADHD特性	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
20代(1)	98.54	15.14	92.04	12.72	108.08	10.46	108.59	9.84
30代(2)	98.89	12.65	97.76	8.66	104.89	7.78	105.29	7.99
40代(3)	102.31	14.85	96.95	9.37	106.30	7.16	105.50	9.46
50代(4)	105.31	15.32	96.04	9.71	108.07	10.81	106.58	9.87
60代(5)	100.68	16.63	98.63	7.33	104.85	7.72	105.42	8.02
70代(6)	97.93	15.69	94.06	9.77	105.12	6.55	103.84	6.73
	$F(5,320)=1.87,$ $p=.098$		$F(5,320)=3.47,$ $p=.005$ $1 < 2,5$		$F(5,318)=1.72,$ $p=.128$		$F(5,317)=1.79,$ $p=.115$	

基本属性による差異

• 年代による差異(後半)

年齢	統合失調症症状		身体症状		精神症状	
	M	SD	M	SD	M	SD
20代(1)	115.38	6.10	101.00	9.94	104.44	15.11
30代(2)	113.73	4.08	101.89	9.74	104.19	12.12
40代(3)	114.25	4.12	102.10	8.94	101.66	15.20
50代(4)	114.38	6.27	106.34	12.18	98.85	13.06
60代(5)	113.25	3.10	103.52	9.52	92.97	12.81
70代(6)	112.95	2.51	107.60	12.33	94.95	14.03
	$F(5,318)=1.98,$ $p=.081$		$F(5,319)=3.45,$ $p=.004$ $1 < 6$		$F(5,320)=6.56,$ $p<.001$ $5,6 < 1,2$	

基本属性による差異

• 最終学歴による差異

年齢	知能		適応行動		ASD特性		ADHD特性	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
小・中・高(1)	94.60	14.38	93.76	10.84	107.02	8.96	106.55	9.06
短大・専門(2)	101.34	12.93	97.44	9.06	105.67	8.43	105.86	8.44
大学・院(3)	110.74	12.60	98.29	8.09	105.27	8.17	104.84	8.60
	$F(2,321)=41.2,$ $p<.001$ $1 < 2 < 3$		$F(2,321)=7.54,$ $p<.001$ $1 < 2,3$		$F(2,319)=1.37,$ $p=.255$		$F(2,318)=1.11,$ $p=.332$	

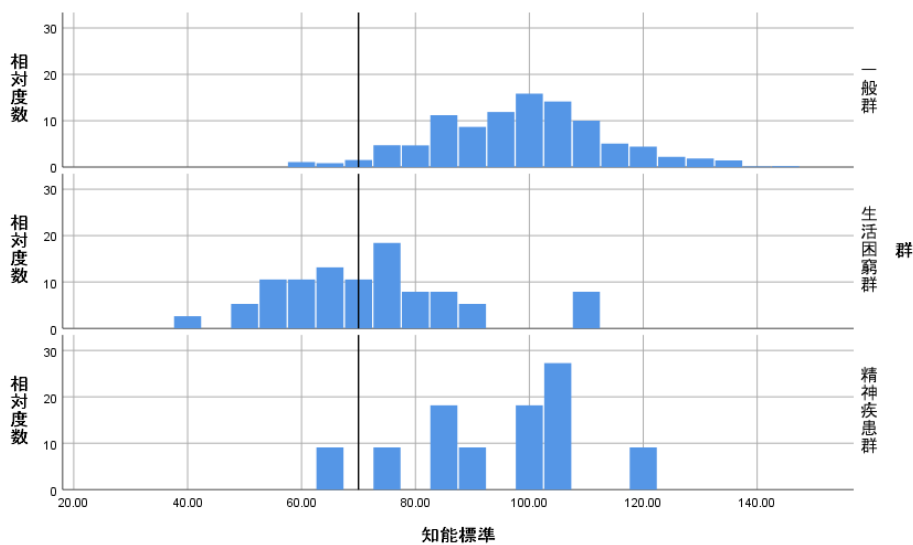
年齢	統合失調症症状		身体症状		精神症状	
	M	SD	M	SD	M	SD
小・中・高(1)	114.13	4.90	106.34	11.09	98.76	14.80
短大・専門(2)	113.74	4.32	102.85	10.32	99.28	12.16
大学・院(3)	113.98	4.40	100.19	9.27	101.41	15.13
	$F(2,319)=0.18,$ $p=.840$		$F(2,320)=10.48,$ $p<.001$ $2,3 < 1$		$F(2,321)=1.02,$ $p=.361$	

群による差異

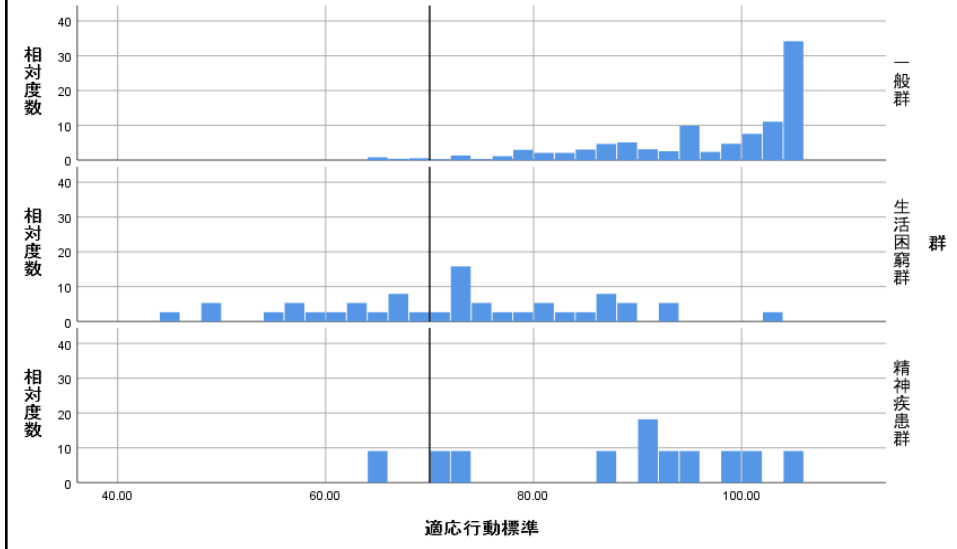
群	知能		適応行動		ASD特性		ADHD特性	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
一般群 (1)	100.86	15.13	96.24	9.60	105.77	8.08	105.56	8.42
生活困窮群 (2)	74.45	16.15	72.29	13.52	114.34	14.94	114.29	15.49
精神疾患群 (3)	94.37	15.94	87.92	14.03	117.06	13.55	113.68	13.51
全体	47.26	11.20	45.75	8.42	56.67	5.98	54.75	7.09
	$F(2,361)=51.09,$		$F(2,361)=94.65,$		$F(2,359)=22.15,$		$F(2,358)=17.41,$	
	$p<.001$		$p<.001$		$p<.001$		$p<.001$	
	$2 < 1, 3$		$2 < 3 < 1$		$1 < 2, 3$		$1 < 2, 3$	

群	統合失調症症状		身体症状		精神症状	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
一般群 (1)	113.74	4.27	103.43	10.45	98.74	13.76
生活困窮群 (2)	120.11	10.85	106.74	13.08	113.71	18.40
精神疾患群 (3)	120.29	7.74	111.30	14.58	119.44	15.05
全体	60.85	4.24	53.66	6.97	51.52	11.19
	$F(2,359)=29.99,$		$F(2,360)=4.42,$		$F(2,361)=29.16,$	
	$p<.001$		$p=.013$		$p<.001$	
	$1 < 2, 3$		$1 < 3$		$1 < 2, 3$	

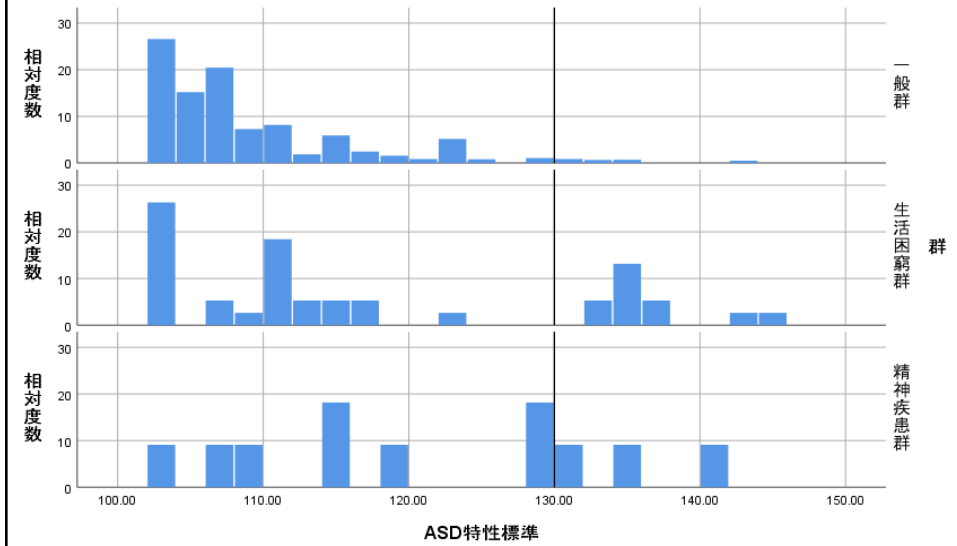
群による差異



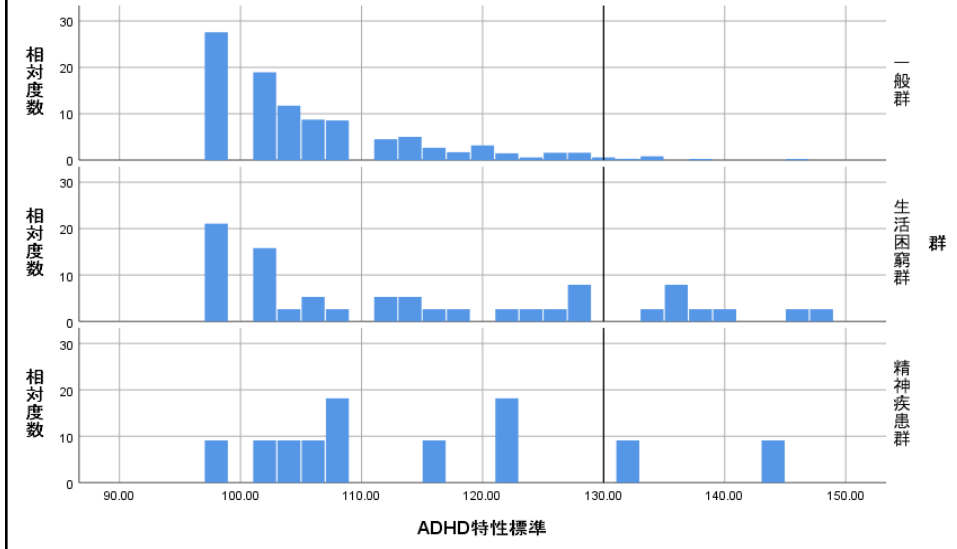
群による差異



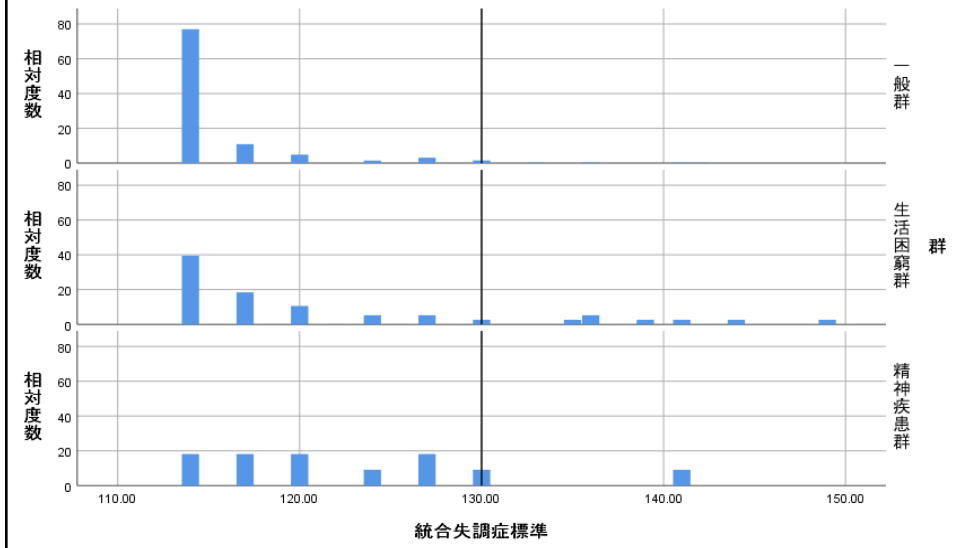
群による差異



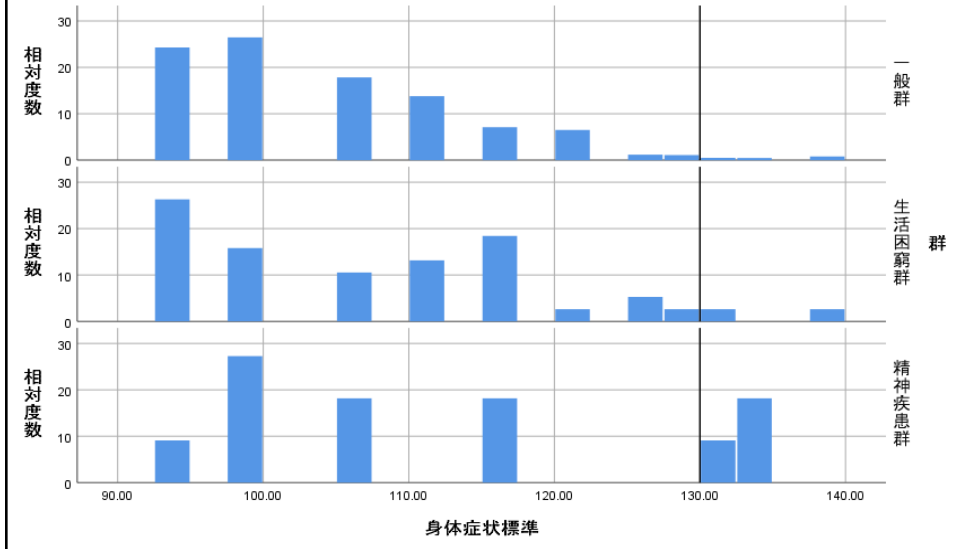
群による差異



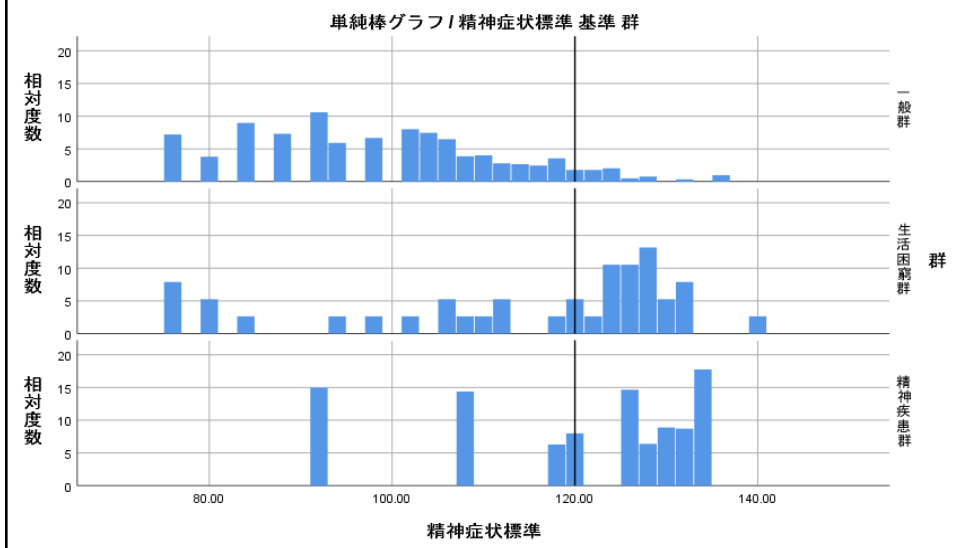
群による差異



群による差異

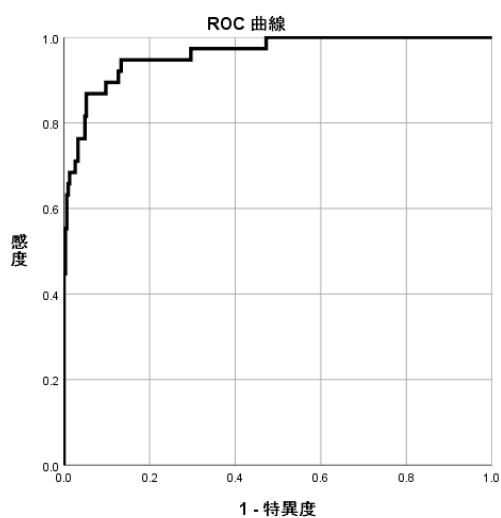


群による差異

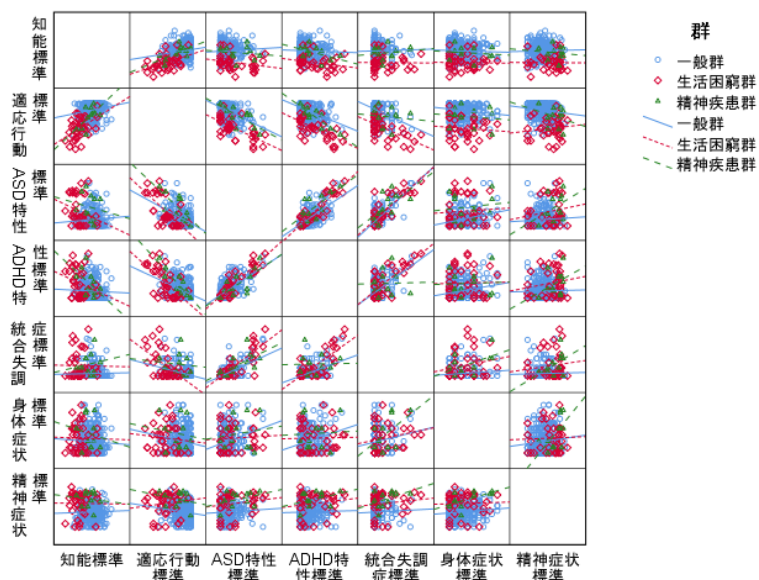


	生活困窮群 (vs. 一般群)			精神疾患群 (vs. 一般群)		
	<i>B</i>	オッズ比	<i>p</i>	<i>B</i>	オッズ比	<i>p</i>
性別(女子 vs. 男子)	-2.483	.084	.004	-.634	.530	.429
年代 (vs. 20代)						
30代						
40代						
50代						
60代	3.131	22.900	.001	.515	1.673	.683
70代						
学歴 (vs. 小・中・高)						
専門・短大	-.619	.539	.591			
大学・院	-.074	.929	.945	.069	1.071	.942
特性・症状						
知能	-.109	.897	.000	-.032	.968	.216
適応行動	-.125	.883	.000	.010	1.010	.844
ASD特性	-.030	.970	.603	.127	1.136	.043
ADHD特性	-.064	.938	.235	-.064	.938	.260
統合失調症症状	.136	1.146	.050	.014	1.014	.842
身体症状	-.018	.982	.569	.008	1.008	.785
精神症状	.103	1.109	.000	.115	1.122	.001
Nagelkerke $R^2 = .740$, McFadden $R^2 = .637$						

生活困窮群の識別精度



尺度間の関連



適応行動 の予測

	Step 1			Step 2		
	<i>B</i>	β	<i>p</i>	<i>B</i>	β	<i>p</i>
性別(女子 vs. 男子)						
群 (vs. 一般群)						
生活困窮群	-23.34	-.570	.000	-14.55	-.355	.000
精神疾患群	-7.612	-.111	.009	0.118	.002	.962
年代 (vs. 20代)						
30代						
40代						
50代						
60代	4.323	.135	.002	2.632	.082	.020
70代						
学歴 (vs. 小・中・高)						
専門・短大	3.438	.110	.014	2.263	.073	.051
大学・院	5.103	.179	.000	2.472	.087	.036
特性・症状						
知能				0.126	.173	.000
ASD特性				-0.489	-.379	.000
ADHD特性				-0.180	-.143	.008
統合失調症症状				0.073	.034	.504
身体症状				0.012	.011	.767
精神症状				-0.034	-.042	.269
R^2		.389	.000		.609	.000

基準関連妥当性

• WAIS-IIIとの相関

		全検査IQ	言語性IQ	動作性IQ	言語理解	知覚統合	作動記憶	処理速度
知能標準	<i>r</i>	.741	.781	.559	.747	.589	.692	.521
	<i>p</i>	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.001
	度数	35	35	35	35	35	34	35
意味	<i>r</i>	.684	.719	.520	.670	.528	.704	.537
	<i>p</i>	.000	.000	.001	.000	.001	.000	.001
	度数	35	35	35	35	35	34	35
数	<i>r</i>	.712	.643	.668	.622	.745	.581	.564
	<i>p</i>	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	度数	35	35	35	35	35	34	35
共通点	<i>r</i>	.468	.495	.351	.502	.388	.477	.309
	<i>p</i>	.005	.003	.039	.002	.021	.004	.071
	度数	35	35	35	35	35	34	35
一般知識	<i>r</i>	.725	.761	.553	.764	.579	.526	.449
	<i>p</i>	.000	.000	.001	.000	.000	.001	.007
	度数	35	35	35	35	35	34	35

基準関連妥当性

• Vineland-IIとの相関

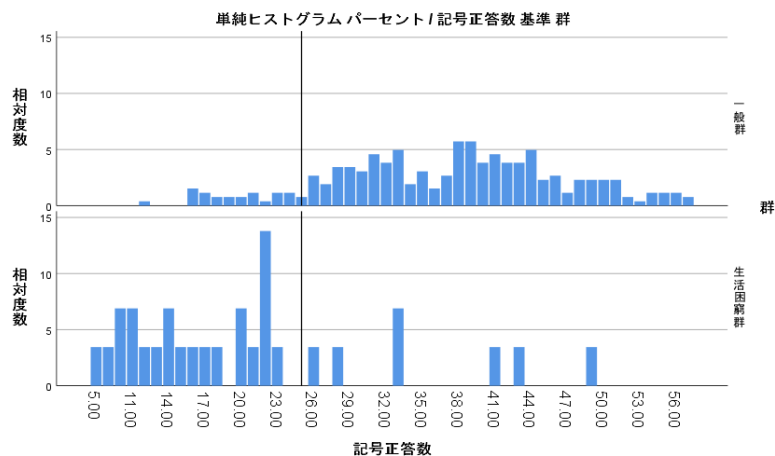
		適応行動 総合点	コミュニ ケーション	日常生活 スキル	社会性	運動スキル
適応標準	<i>r</i>	.629	.380	.584	.467	.426
	<i>p</i>	.000	.032	.000	.007	.038
	度数	31	32	32	32	24

タブレットによる検査の信頼性

	修正済み I-T相関	項目が削除 された場合 の α 係数
意味	.701	.775
数	.686	.779
共通点	.698	.774
一般知識	.582	.809
記号	.480	.836
α 係数	.830	

タブレットによる検査の妥当性

・ 群による差異



タブレットによる検査の妥当性

• 生活困窮群 の識別

	<i>B</i>	オッズ比	<i>p</i>
特性・症状			
適応行動	-.107	.898	.002
ASD特性			
ADHD特性			
統合失調症症状			
身体症状			
精神症状	.091	1.095	.001
知能検査			
意味	-.071	.932	.008
数			
共通点			
一般知識			
記号	-.069	.933	.024
Nagelkerke R^2		.776	

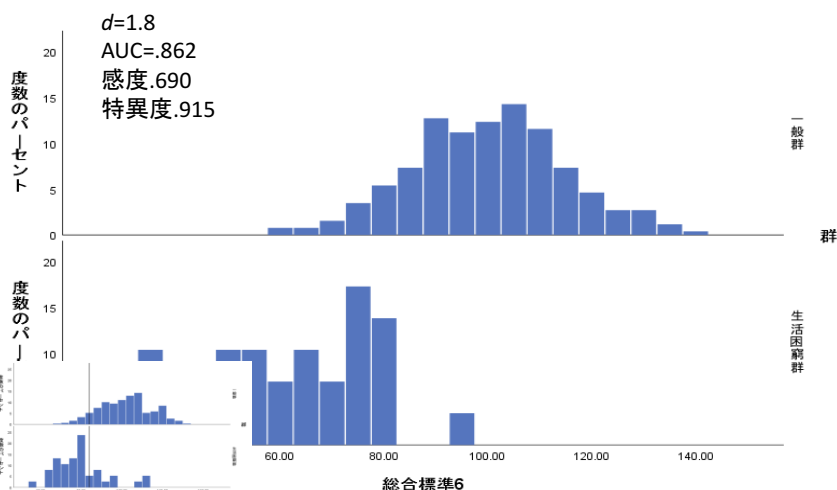
タブレットによる検査の妥当性

• 適応行動の 予測

	<i>B</i>	β	<i>p</i>
特性・症状			
ASD特性	-.322	-.251	.000
ADHD特性	-.315	-.248	.000
統合失調症症状			
身体症状			
精神症状	-.102	-.123	.003
知能検査			
意味	.489	.158	.003
数			
共通点	.764	.153	.004
一般知識			
記号	.179	.155	.001
R^2		.571	

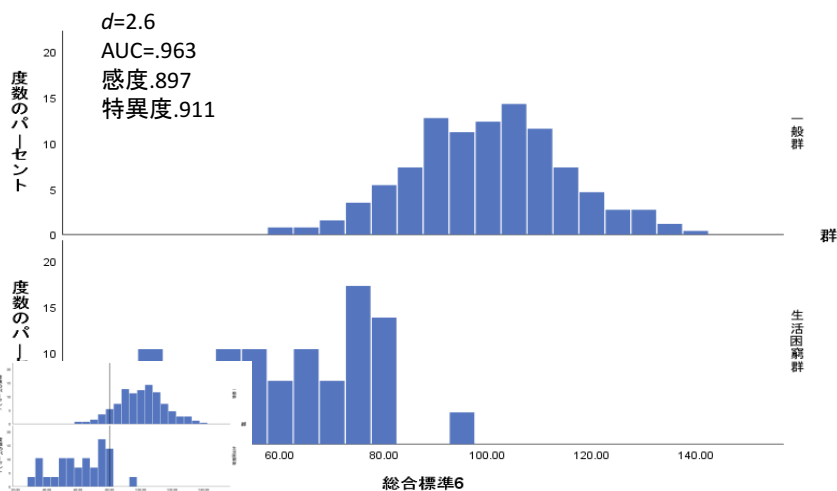
パッケージとしての性能

- 生活困窮群の識別（知能単独）

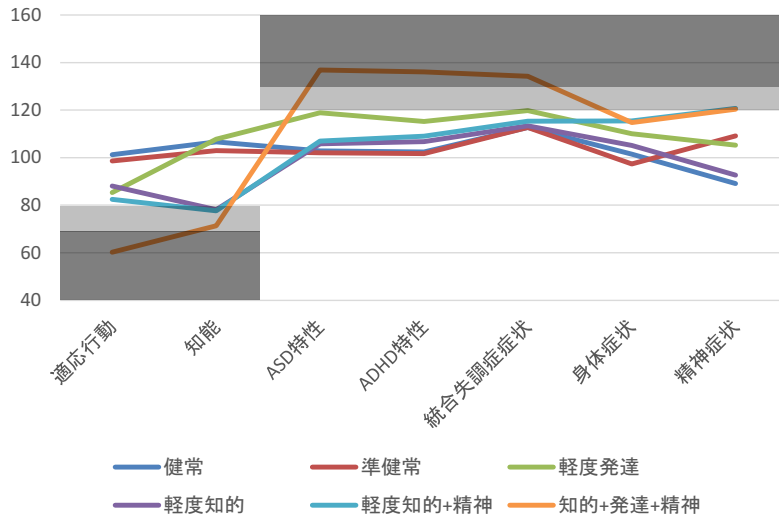


パッケージとしての性能

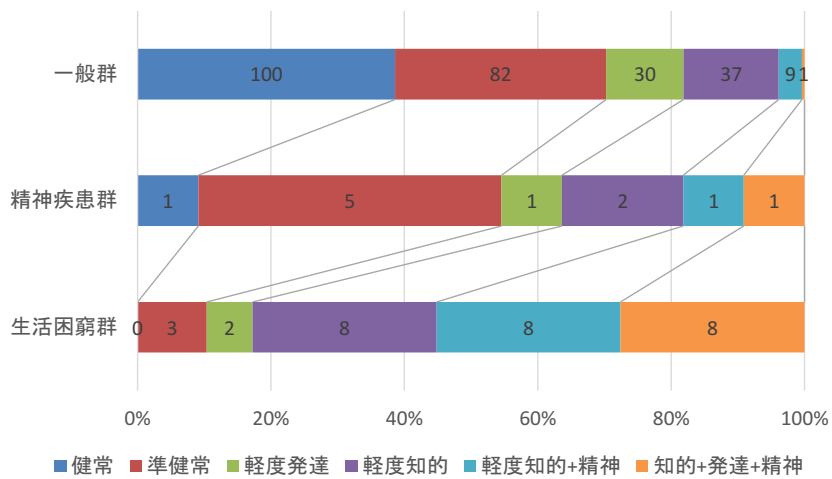
- 生活困窮群の識別（知能&適応&発達&精神）



クラスター分析

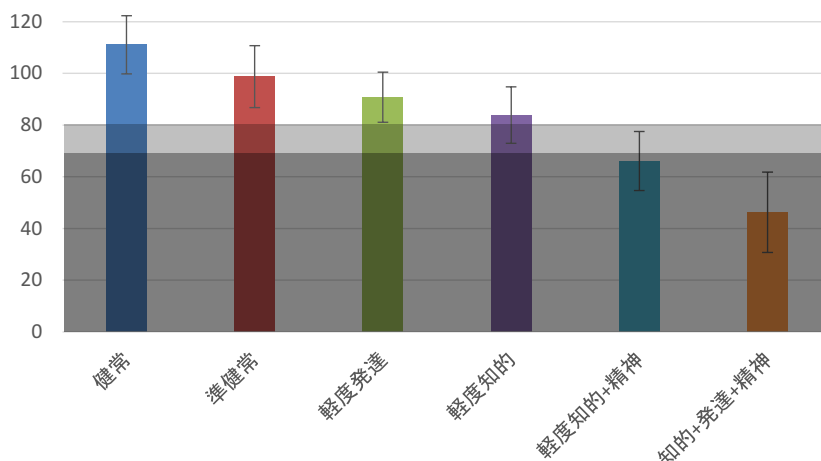


クラスター分析



クラスター分析

総合適応度



プロトタイプ版開発の総括

- 知能検査は実施時間を3分の1程度に短縮したが、十分な妥当性を保った
- 適応行動検査も面接から質問紙に変更し、項目数も大幅に減らしたが妥当性を維持
- 他の尺度も生活困窮群の識別や適応行動の予測に独自の貢献
- アセスメント・パッケージとして利用することで生活困窮者の多様な支援ニーズを的確に把握できる

ABITの現状

- セキュリティの関係で、現在はタブレット内で完結し、外部と接続しないようにしている。
- タブレットの入力で、本人からメンタルヘルス部分と知能検査部分を入力実施後、支援者・調査者が適応行動部分・発達障害部分（ASD・ADHD）・精神障害部分・身体症状部分を入力実施。その後、アルゴリズムによって、適応状況得点が算出され表示されます。

ABIT表示画面等の説明

3つのユーザについて

- 便宜上3つのユーザを「検査者」「当事者」「施設職員」と呼んでいる
- 検査者と施設職員は同じでもかまわない



起動直後のホーム画面



日住システム A B I T ver2

ホーム画面

ホーム

検査者の方は、下の「基本情報の入力ボタン」より、当事者の性別、生年月日、インテーク日等の基本情報を入力し、検査を実施してください。

[基本情報の入力](#)

既に検査を終えた当事者の情報を閲覧したい場合は、下の「検査未実施の当事者一覧ボタン」をタップしてください。

[検査未実施の当事者一覧](#)

[ログアウト](#)

Copyright© 2019 - Chukyo Univ. All Rights Reserved.

検査者ログイン画面

※検査者とは、検査を担当する者



日住システム A B I T ver2

ログイン画面

ログイン

検査者の方は、下記のフォームにユーザ名とパスワードを入力して、ログインしてください。

ユーザ名
19011001

パスワード
Password

ログイン

Copyright(C) 2019- Chukyo Univ. All Rights Reserved.

基本情報入力画面

※検査を受ける当事者の基本情報を入力する画面



日住システム A B I T ver2

基本情報入力画面

ホーム / 基本情報入力

以下のフォームに当事者の基本情報を入力してください。
「*」は必須です。

ケース番号*
12345678

氏名* (姓・名の間を一文字あける 例：中京 太郎)
中京 太郎

性別
男

生年月日 (YYYYMMDD 例：1970年1月1日 19700101)
19700101

結婚歴
既婚

登録する

Copyright(C) 2019- Chukyo Univ. All Rights Reserved.

ユーザ（当事者）作成完了画面



検査者

日住システム A B I T ver2

ユーザ作成完了

ホーム / ユーザ / 作成

当事者の登録が完了しました。

ケース番号	12345678
氏名	中野 太郎
誕生日	2020-11-20 17:50:00
性別	男
生年月日	1970-01-01
姓補綴	院橋

登録した当事者の評定を開始

Copyright(C) 2019- Chukyo Univ. All Rights Reserved.

回答開始画面

※検査を受ける当事者にタブレットを渡し、
その場で回答してもらう



検査者



当事者

日住システム A B I T ver2

当事者評定ホーム画面

当事者がタブレットを持って回答します

ホーム / 当事者評定

はじめに、当事者自身に評定をしてもらいます。

何らかの理由（当事者文章の意味を正確に読み取れないなど）で、当事者による評定が作れない場合は、「評定をパスする」を押してください。ただし、評定をパスした場合、アセスメントの精度が低下しますので、やむをえない場合に限ります。

評定に迷む場合は、「次へ」ボタンを押して、当事者にタブレットを渡してください。

次へ

評定をパスする

Copyright(C) 2019- Chukyo Univ. All Rights Reserved.

当事者回答画面

※検査を受ける当事者が実際に回答する画面
(一部)



日住システム A B I T ver2

当事者評定画面

当事者がタブレットを持って回答します

ホーム / 当事者評定 / メンタル

問題1 他の人や物事に興味を持ってない

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

問題2 日々の生活に楽しさや喜びを感じない

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

問題3 何か恐ろしいことが起こるのではないかと感じる

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

問題4 昼夜逆転している、または、長く眠りすぎる

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

次へ

質問終了画面

※ここでタブレットを職員に返却

日住システム A B I T ver2

当事者評定画面

当事者がタブレットを持って回答します

ホーム / 当事者評定 / メンタル

問題5 自分は価値がない人間だと思う

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

問題6 つまづめられない、または、すぐに起きてしまう

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

問題7 不安で落ち着かないような恐怖感がある

よくあてはまる おおむねあてはまる 少しあてはまる 全くあてはまらない

次へ



日住システム A B I T ver2

当事者評定終了画面

ホーム / 当事者評定

これで評定は終わります。福祉事務所の職員にタブレットを返してください。

次は17の評定です

Copyright(C) 2019・Chukyo Univ. All Rights Reserved.

この後の検査 の流れ①

•次の検査開始



•当事者にタブレットを渡す



•記号探し検査（当事者がタブレットに直接回答）



•検査者にタブレットを返却



•算数の検査（検査者が問題を読み上げ、当事者は口頭で回答）



•共通点の検査（検査者が問題を読み上げ、当事者は口頭で回答）

記号探し画面（例）

日住システム A B I T ver2

記号探し練習画面

当事者がタブレットを保持して回答します

ホーム / 1 T / 記号探し（練習の画面です）

左側と右側に記号が並んでいます。
左側にある記号のどちらか1つでも、同じ記号が右側にあったら「ある」ボタンを押してください。※まだ「ある」「ない」ボタンを押さないでください。

「進む」ボタンを押すと次の説明にうつります。

1	$\neq$ Δ	$\in$ ∞ ∇ $\neq$ $\boxtimes$	ある	ない
2	$\parallel$ π	$\ominus$ $\sim$ $\neq$ $\neq$ $\neq$	ある	ない
3	$\ni$ Δ	$\diamond$ Δ $\otimes$ f $\oplus$	ある	ない
4	$\boxtimes$ $\nearrow$	$\rightleftharpoons$ $\diamond$ $\nwarrow$ $\nwarrow$ $\nwarrow$	ある	ない
5	$\cdot$ $\times$	$\bullet$ Δ $\curvearrowright$ $\dots$ $\odot$	ある	ない
6	$\odot$ $\rightarrow$	$\circ$ $\pm$ $\rightarrow$ $\parallel$ $\neq$ $\neq$	ある	ない

進む

Copyright© 2019 - Chukyo Univ. All Rights Reserved.



この後の検査 の流れ②

•次の検査開始



•普段の様子をよく知っている施設職員にタブレットを渡す（パスはできない）



•AB→社会性→注意→現実感→身体的健康



•検査の終了



•検査者などにタブレットを返却



本人評定と、施設職員評 定との差があるとき

※あきらかに大きい差が出た場合は注意喚起される



日住システム A B I T ver2

A B 評定画面

施設職員がタブレットを持って当番者について回答します

ホーム / 施設職員評定 / A B

問題33 はさみを使って複雑な形を切る（例：星、動物、文字）

手助けが無くても一人でできる ☐ 手助けがあればできる ☐ 手助けがあってもできない ☒ わからない ☐

問題34 ちょうちん結びができる

手助けが無くても一人でできる ☐ 手助けがあればできる ☐ 手助けがあってもできない ☒ わからない ☐

問題35 を押す

手助けが無くても一人でできる ☐ 手助けがあればできる ☐ 手助けがあってもできない ☒ わからない ☐

次へ

Copyright(C) 2019- Chukyo Univ. All Rights Reserved.

評定いただいた結果と当事者の知的評価の結果に大きな差があります。戻って再評定する場合は「OK」、そのまま次へ進む場合は「キャンセル」を押してください。

OK

Cancel

次へ

結果の閲覧

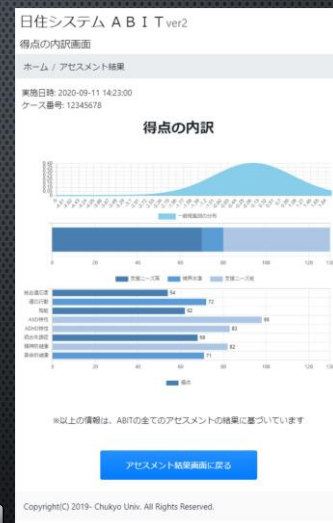
検査者

➡

検査者

結果のグラフ

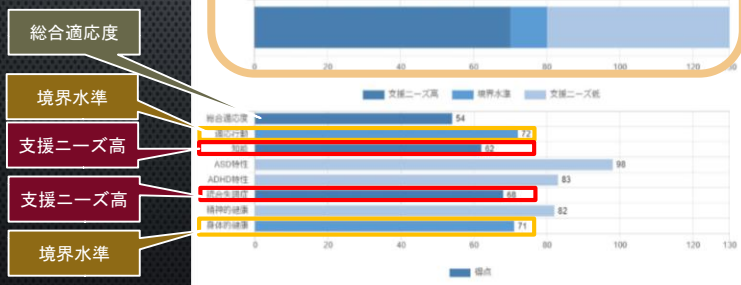
※結果を表示すると、凡例と個別結果をグラフ表示する



検査者

結果のグラフ

凡例の下に結果をグラフ表示する（短＝支援ニーズ高）



ABITプロトタイプ版と正式版の検査・項目数と所要時間の違い

形式		ABITプロトタイプ版		ABIT正式版	
		検査・項目数	所要時間	検査・項目数	所要時間
知能	検査	5検査	20-30分	3検査	15-20分
適応行動	第三者評定	40項目	7分	35項目	6分
ASD症状	第三者評定	20項目	3分	6項目	1分
ADHD症状	第三者評定	18項目	3分	6項目	1分
統合失調症	第三者評定	9項目	2分	5項目	1分
身体症状	第三者評定	13項目	2分	8項目	1分
精神的健康	本人評定	19項目	3分	6項目	2分
合計			40-50分		27-32分

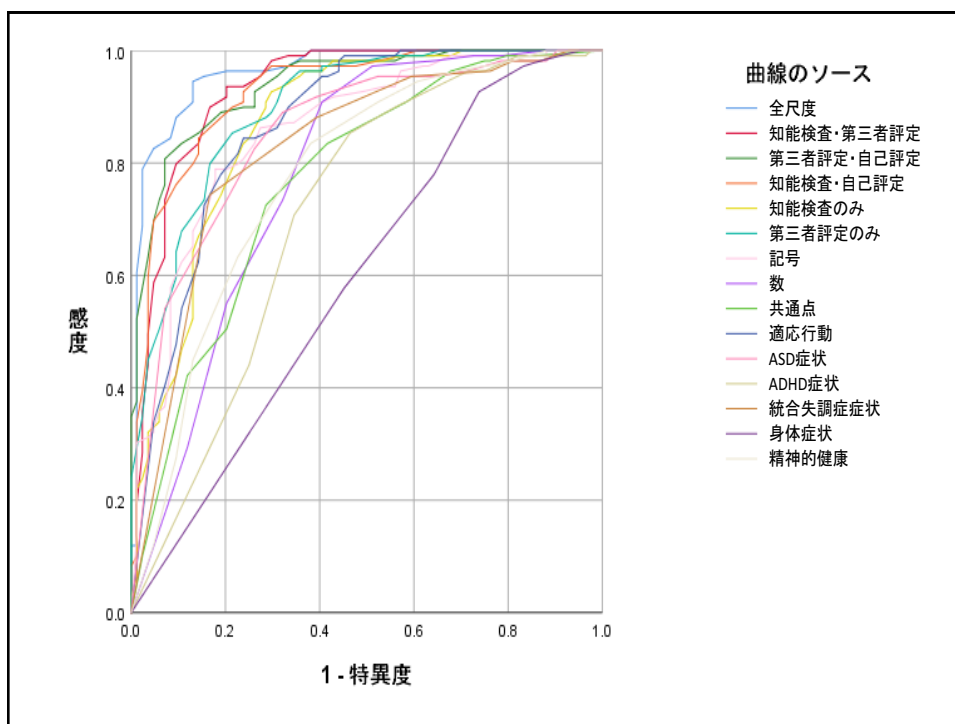
調査の参加者

	<i>n</i>			年齢		
	男性	女性	合計	<i>M</i>	<i>SD</i>	Range
一般群	57	53	110	49.19	16.60	21 -79
生活困窮群	72	12	84	57.89	14.70	23 -93
知的障害群	20	13	33	49.06	11.99	23 -72
統合失調症群	18	12	30	56.53	12.00	31 -79
うつ病群	4	3	7	56.29	15.66	28 -78
ASD群	8	1	9	31.33	8.46	18 -41
	179	94	273			

一般群と生活困窮群の判別分析結果

	全尺度	知能検査・ 第三者評定	第三者評定 ・自己評定	知能検査・ 自己評定	知能検査 のみ	第三者評定 のみ
記号	.336	.384	-	.444	.529	-
数	.278	.215	-	.472	.481	-
共通点	.114	.106	-	.320	.318	-
適応行動	.351	.400	.638	-	-	.691
ASD症状	.168	.123	.238	-	-	.201
ADHD症状				-	-	
統合失調症症状	.306	.401	.278	-	-	.360
身体症状				-	-	
精神的健康	.459	-	.444	.564	-	-
正準相関	.817	.785	.773	.739	.674	.738

注: 分析に含まれなかった変数は「-」、ステップワイズ法により除外された変数は空欄で示した。



一般群と生活困窮群の識別におけるROC分析の結果

説明変数	AUC	SE	感度	特異度
全尺度	.961	.014	.714	.963
知能検査・第三者評定	.931	.020	.702	.982
第三者評定・自己評定	.937	.016	.595	.982
知能検査・自己評定	.926	.019	.524	.972
知能検査のみ	.869	.027	.571	.982
第三者評定のみ	.898	.022	.583	.972
記号	.859	.027	.369	.972
数	.781	.035	.357	.982
共通点	.770	.035	.238	.982
適応行動	.868	.027	.512	.991
ASD症状	.851	.028	.286	.963
ADHD症状	.711	.039	.250	.963
統合失調症症状	.826	.031	.190	.982
身体症状	.597	.042	.131	.982
精神的健康	.777	.035	.190	.982

注：感度・特異度は70をカットオフ値としたときの値

ABIT開発の総括

- 今年度の事業では、昨年度調査の結果に基づきタブレット端末上で動作するABIT正式版を開発し、一般群110名、生活困窮群84名、臨床群79名（計273名）を対象とした調査により、標準化および心理測定学的性質の検証を行った。主な結果は以下の通りである。
- 主に紙で実施したプロトタイプ版（昨年度調査）とタブレットで実施した正式版（今年度調査）では一部尺度の得点に差が見られたため、今年度調査のデータを用いて改めて標準化を行った。
- 運用の利便性を高めるため、全尺度を使用したバージョンだけでなく、知能検査、第三者評定、自己評定のいずれかが欠損したバージョンでも一定の性能が維持されることを確認した上で、標準化を行った。
- 知能検査の3つの下位検査は知的障害、統合失調症尺度は統合失調症群、精神的健康尺度はうつ病群、ASD症状尺度はASD群で最も得点が低くなり、尺度の収束的妥当性が明確に確認された。
- 様々な重みづけのパターンを用いることで、知的障害、統合失調症、ASD、うつ病を高い精度で一般群と識別できることが示された。ABITは当初想定していた全般的な支援ニーズの把握だけでなく、生活困窮者が有する未診断の障害や疾患を個別的に検出する上でも高い有効性を発揮すると考えられる。

今後の課題

- 福祉事務所のワーカーの実施のためのトレーニングの課題
- 他施策との整合性
- 現在、障害者福祉施策において、療育手帳（知的障害）の判定基準の全国統一化が進行している（厚労科研辻井班（療育手帳））。
- 児童相談所や知的障害者更生相談所において、簡易な形での知的障害と適応行動の把握のツール開発が検討されていくことが想定されている。